

「この街」のために。「あなた」のために。

そうこう[®]

S O U K O U

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL : 048-552-1111

2019年10月号(月刊) 発行: 社会医療法人 壮幸会 行田総合病院



2019 / 10月発行 / vol.052

特集 内科▶

内科。知っておきたい7つのこと

NEWS ▶

台風15号の影響を受け、当院DMATが出動

内科

知っておきたい7のこと

1

何科を受診すれば...?
迷ったら「総合内科」へ。

■総合内科

① 専門科を特定できない諸症状（発熱、倦怠感、浮腫、めまい等）の患者さんの窓口としての役割。
② 生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症）などの慢性疾患の初期診療を行っています。

各専門を持つ医師が患者さんの訴えから診断を下し、薬による治療や生活上のアドバイスをを行い、症状や検査結果によって適切な専門科への紹介を行っています。

例えば、高血圧と心房細動は

循環器内科、肺気腫は呼吸器内科に受診していただいた場合、状態によっては総合内科で全ての疾患をまとめて診察することも可能です。メリットとしては薬の重複や相互作用を少なくすることができ、治療の優先順位もつけやすくなります。もちろん、専門医に診てもらおうべき内容は適切に紹介させていただきます。

総合的に判断します。また、インフルエンザや肺炎球菌等のワクチン接種も行っています。

症状	考えられる疾患
発熱	インフルエンザ、風邪などの感染症、各種がん、膠原病等
倦怠感、体重減少	糖尿病、甲状腺などの内分泌疾患、貧血、各種がん等
頭痛	緊張型頭痛、偏頭痛、脳腫瘍、脳血管障害等
胸痛	心筋梗塞、狭心症、肺がん、気胸、逆流性食道炎等、帯状疱疹等
腹痛	胃潰瘍、腸閉塞、胆石、尿管結石、虫垂炎、胃がん、大腸がん等



△内科主任部長・副院長／新井医師

2

呼吸機能等）、レントゲン検査、CT検査、MRI検査等があります。

さらに、その他の検体検査として病理検査があります。これは、内視鏡での生検（組織採取）、腹水や胸水の穿刺液、肝臓の針生検から得られた検体で、がんの有無などを病理診断科の医師が診断します。

超音波検査は、患者さんに負担をかけることなく、臓器の状態を調べる検査です。腹部超音波検査では、胆石・脂肪肝・肝臓がんの有無など、心臓超音波検査では弁膜症の有無など、頸部超音波検査では動脈硬化の有無などを調べます。

3

■循環器内科

3名の専門医を中心にしたチーム医療。

循環器内科は、狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患、心房細動などの不整脈、弁膜症などの心不全、足の動脈硬化である閉塞性動脈硬化症、高血圧や高コレステロール血症といった生活習慣病を主な領域としています。症状からみると、「胸が痛い・苦しくなる」、「胸がドキドキする」、「動くとハーパー・ゼーゼーする」、「足がむくむ」、「歩くと足が痛くなる」、「メタボが心配である」・健診でコレステロールが高いと言われている、「といった方が対象になりますので、心当たりのある方は早めの受診をお勧めします。

本年6月から不整脈診療を得意とする生天目医師が赴任し、不整脈に対するカテーテル治療（カテーテルアブレーション）を開始することとなりました。高齢化社会の到達で、特に心房細動に罹患する方が多くなっています。心房細動は、有名な元プロ野球選手などの例があるように脳梗塞の原因にもなり得ますし、放っておくと、長期的には心不全をきたすようになるため、適切な治療が必要になります。

動悸症状が強い方や、まだ慢性になっていない発作性心房細動の患者さんについては、カテーテルアブレーションによるメリットが享受できる可能性があります。治療に際しては、そのメリット・デメリットを十分に説明の上、最適な方針を選択できるよう、医師が患者さんと一緒に考えていきます。

4

■腎臓内科

検尿で異常を指摘されたら...



△腎臓内科医長・佐藤医師

健康診断での異常（蛋白尿、血尿、腎機能低下）、慢性腎臓病（糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、硬化化症など）、血液透析、腎不全・透析関連合併症、その他にも腎臓と深く関係している高血圧などの生活習慣病、さらには浮腫なども診療対象としています。

緊急処置を要する急性腎不全等の疾患には積極的に急性血液浄化療法やアフェリシス療法を導入し、集中管理治療を行っています。検尿異常や腎機能低下を指摘された場合は放置せずに受診してください。

△アンギオ室にて。前列左から生天目医師／部長・興野医師／医長・猪股医師



△2019年7月からカテーテルアブレーション治療を開始



△循環器内科病棟は、新南棟3F

[3] ●医学用語に関するよくある質問①「合併症ってなに?」
▶「ある病気が原因となって起こる別の病気」または「手術や検査などの後、それらがもとになって起こることがある病気」の2つの意味を持つ医学用語です。

呼吸器内科

気管から肺にいたるさまざまな病気を治療。

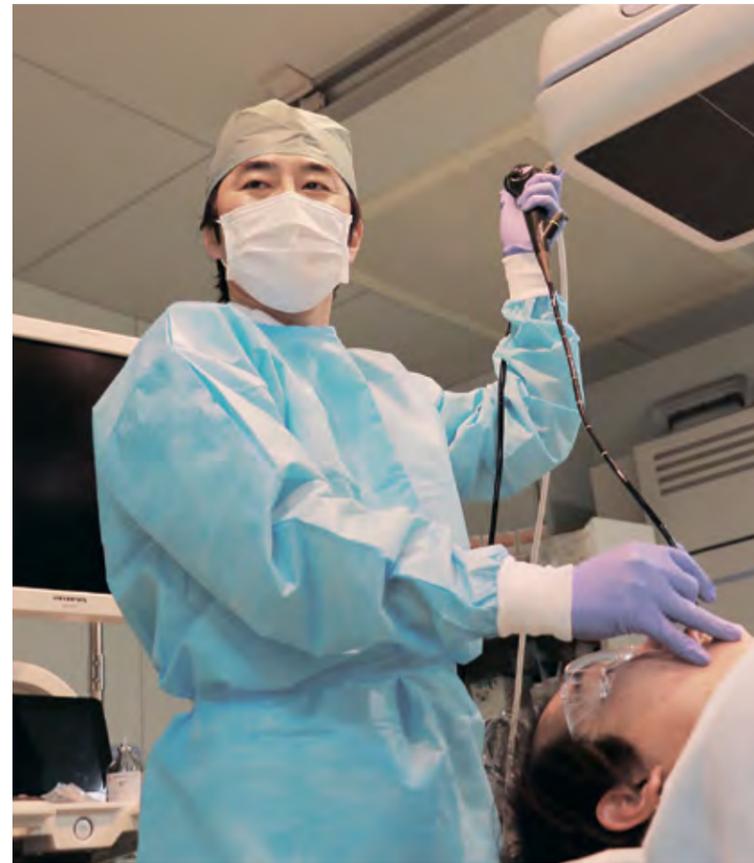
気管、気管支、肺を中心に診療を行います。病名は市中肺炎や誤嚥性肺炎などの呼吸器感染症、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺がん、間質性肺疾患、肺がん、間質性肺炎など、身近でしかも重症化しやすい呼吸器疾患の診断・治療を行っています。

また、睡眠時無呼吸症候群の検査・治療にも力を入れ

5

ています。放っておくと脳血管障害や心疾患、高血圧などにかなりやすく、日中の眠気から思わぬ事故につながる病気です。ただし、治療法が確立されており、正しい治療を受ければ問題なく日常生活を送ることが可能です。本誌をご覧の皆様で、呼吸器症状にご不安なことがありましたら遠慮なくご相談ください。

多職種が共同して多くの専門家の視点から患者さんを診ること、多くの医師の関与により時間的にも途切れることのない診療により、皆様のご期待に沿える医療を提供できるものと確信しております。



△気管支鏡で治療を行う呼吸器内科部長・竹内医師

糖尿病内科

糖尿病は食事・運動・薬物療法が大切。



△内科副部長・吉田医師

糖尿病は食事・運動・薬物療法が大切な疾患です。個人栄養指導、科学的な運動療法指導、適切な薬剤・清潔指導を行い、充実した体制にて糖尿病コントロールを目指しています。

また、腎臓内科や眼科と協力し、腎症や網膜剥離等の合併症早期診断・予防・治療にも注力し、外科系診療科とも連携して手術前後の管理を実施しています。看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師がそれぞれの立場から病態・合併症・治療法・日常生活の注意点をわかりやすく説明しています。

6

このほかに診療できる内科の専門領域

神経内科

中枢神経(脳・脊髄)、末梢神経、筋肉などの異常を診断・治療する診療科です。頭痛・意識障害・物忘れ・勝手に手足がうごいてしまう・しゃべりにくい・手足が突っ張る・しびれ・筋力低下・ふらつきなど、神経内科で扱う疾患が原因となる症状は数多くあります。

リウマチ膠原病内科

関節リウマチをはじめとする膠原病(こうげんびょう)やそれらの関連疾患など、ひろく免疫の異常が関わる疾患の患者さんを対象に診療を行っています。

血液内科

血液疾患のなかでも血液悪性新生物(悪性リンパ腫、慢性骨髄性白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、慢性リンパ性白血病等)をはじめ、特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血、溶血性貧血、鉄欠乏性貧血といった多様な血液疾患を診療しています。

内分泌代謝内科

ホルモンを作る臓器の病気、ホルモンの作用の異常をきたす疾患等、幅広く診察しています。

消化器内科

内視鏡による検査・治療数の多さを誇る。

消化器内科は、胃がん、大腸がん、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、肝炎、肝硬変、膵炎、潰瘍性大腸炎など、現役世代の男性がかりやすい病気を扱います。

また、胃や腸といった消化管の内視鏡検査を希望する場合も消化器内科にご相談ください。早期がんを発見するため年に1度の内視鏡検査をおすすめしています。

当院での内視鏡検査は、できるだけ苦痛を軽減させるようにしています。それでも不安の強い方には適度な麻酔薬の使用(眠った状態での検査)も可能です。早期発見ができれば、お腹を切らずに内視鏡での治療が可能です。

7

場合があります。入院日数も1週間前後で対応しています。

当院には最新の内視鏡が揃っているので、検査でより小さながんを発見できる可能性があります。そして発見したがんの広がりや正確に把握し、深さの推測ができます。内視鏡治療ができる可能性があると判断されれば、質の高い精密な内視鏡技術でがんを丁寧に切除します。その後は厳密な病理診断がなされ、必要であれば迅速に外科と連携し追加の治療が必要であるかどうか検討をします。

治療そのものは内視鏡室で行うので、患者さんは普通の検査を受けているのとあまり変わらない感覚で受けていただけますが、治療については常に外科医師、病理診断医と連携しバックアップを受ける体制ができています。



△検査準備中の内視鏡センター長・芹澤医師

ME 課主催による院内勉強会
新南棟 4F 会議室



2019年7月10日(水)、7月25日(木)ほか
様々な医療機器を安全に使用するために。

ME 課は新人看護師をはじめ、当院の誰もが参加できる勉強会を毎月開催しています。5月『除細動器の取り扱い』『生体管理モニター』、6月『睡眠時無呼吸症とCPAP』、7月10日『IABP』(写真)、7月25日『高圧酸素療法の安全知識』をテーマに講義と実技を織り交ぜながら行われ、多くの職員が正しい医療機器の取り扱いについて学びました。

病院紹介動画
鴻巣市役所で放映中



2019年7月1日(月)～
24時間・365日急患受入
をご案内する病院紹介動画(15秒)を鴻巣市役所のモニターで1日数十回放映しています。鴻巣市役所でのご用事の際にぜひご覧ください。

行田地区地域医療連携講演会
新南棟 4F 会議室



【開会の辞】 行田市医師会 加藤内科医院 院長・堀内医師	【一般講演座長】 当院 循環器内科 医長・猪俣医師	【一般講演】 当院 循環器内科 部長・興野医師	【特別講演座長】 当院 理事長・ 川嶋医師	【特別講演】 帝京大学医学部 附属病院 循環器内科 教授・上妻医師	【閉会の辞】 行田市医師会会長 根本医院 院長・根本医師
---------------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	--------------------------------	--	---------------------------------------

2019年8月27日(火)

行田市医師会の共催による『行田地区 地域医療連携講演会』が当院で開催されました。

一般講演は当院循環器内科医長・猪俣医師が座長を務め、当院循環器内科部長・興野医師による『TAVIを施行した心不全症例からの考察』。特別講演は当院理事長・川嶋医師が座長を務め、帝京大学医学部附属病院 循環器内科 教授・上妻医師による『超高齢化社会における心血管インターベンションの方向性』と題した講演が行われ、行田市医師会の先生方をはじめ多くの医療関係者が参加されました。

台風15号の影響を受け、当院 DMAT 隊員が出動
千葉県君津市



2019年9月11日(水)
早朝 4:00 に当院を出発。

千葉県内における台風15号の被害に伴う医療活動を行うため、千葉県から埼玉県に対しDMAT派遣要請があり、当院のDMAT隊も9月11日早朝に出動しました。救急総合診療科・濱田医師を含む4名の隊員は、君津・安房DMAT活動拠点本部(君津中央病院)、安房地域医療センター、鋸南町地域包括センター等で48時間の医療活動を行いました。

※写真提供：行田総合病院 DMAT

がん薬物療法勉強会
新南棟 4F 会議室



外科医長 福元医師

2019年7月10日(水)

化学療法委員会主催による勉強会を開催。

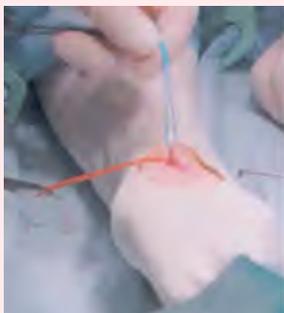
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医である外科医長・福元医師による講義が行われました。「がん薬物療法って何?」を導入に、胃がん化学療法、大腸がん化学療法、膵がん化学療法、胆道がん化学療法など、消化器系のがんについてのお話となり、抗がん剤がどうやってがん細胞に効くのか?、抗がん剤を投与する目的などについて、詳しく理解することができました。

ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付けております。

●『下肢の血管専門外来』／血管外科からのお知らせ

ところで、『足のむくみ』が気になっていませんか？



公益社団法人 行田総合病院
血管外科の紹介

一過性ではなく数日間『足のむくみ』が続くような場合には病気の可能性があります。

- ・足がだるい
- ・足の血管がポコポコと浮き出ている
- ・夕方になると足がむくむ
- ・夜間に足がつりやすい

このような症状を少しでも感じたら受付窓口にご相談ください。血管外科医による診察を行っております。

また、当院のホームページには『血管外科の紹介動画』が掲載されています。ぜひご覧ください。

http://gyoda-hp.or.jp/blog/2019/07/05/vascularsurgery_video/

【行田総合病院『下肢の血管専門外来』／血管外科】

●健診担当からのお知らせ

行田市特定健診を受けましょう。期間：2019年6月1日～2020年2月29日

行田市から届く受診券をお持ちの方はご予約できます。
当院での健診をご希望の方は、お電話にて事前のご予約をお願いします。

▶ご予約・お問合せ

TEL.048-554-0005 (健診担当)

目的：生活習慣病の発症を未然に防ぐために、メタボリックシンドロームに着目した健診。
対象者：40～74歳までの方で、国民健康保険に加入の方（行田市在住の方）。
検査内容：身長・体重・腹囲・血圧・血液検査等。
自己負担額：500円（70歳以上および所得により無料）詳しくは受診券をご覧ください。

※当院では市健診の他にも個人や企業向けなど、様々なタイプの健診を行っています。

詳しくはホームページをご参照ください。http://gyoda-hp.or.jp/shinryoka_guide/kenshin-2/

【行田クリニック 健診担当】



●頭痛外来／脳神経外科からのお知らせ

毎週火曜午前に頭痛外来を行っています。

●誰もが経験のある頭痛。

『頭痛くらいで...』と思わないで、一度「頭痛外来」を受診してみてください。

まずはあなたの頭痛が「他の病気が引き起こしている頭痛」なのか「多くの人を悩ませている慢性頭痛」なのかを問診・診察・検査を通して判断します。

●「他の病気が引き起こしている頭痛」の場合

その原因となっている病気を治すことが治療の目的となります（例：風邪、発熱などのほか、稀にくも膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、髄膜炎など、危険な病気も含まれます）。

●「多くの人を悩ませている慢性頭痛」の場合

治療目的はその頭痛自体をコントロールする事が重要となります（例：偏頭痛、緊張型頭痛、群発性頭痛など）。

頭痛外来では、頭痛全般について診断を行い、病状によっては適切な診療科を紹介させていただきます。

【行田総合病院『頭痛外来』／脳神経外科】

